



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 6 月 26 日(土)
梅内花いっぱい活動 編

梅雨の晴れ間が広がった土曜日の朝 8 時。今年も梅内では、松寿会などの方々とともに、さつき会の花いっぱい活動が始まりました。参加者は約 30 人。その大半は女性です。

この日、県道 202 号沿い約 2km に植えられたのは、オレンジと黄色のマリーゴールド。長年、皆さんで続けてこられた活動だけあって、誰かが指示を出さなくても、各人が自分の役割を果たすことでどんどんと作業が進んでいきます。

列の先端には、軽トラックから下ろされたコンテナが縁石の上に置かれ、その中の花ポットを 2 人の女性が等間隔に置いていきます。そこを目印に鍬で穴を掘る方が続きます。

場所によっては作秋のコスモスのこぼれ種が芽吹いていたり、ジャーマンアイリスの株が育っていたりしますが、それらを痛めないように、間に上手に植えていきます。この日もシラン*やカワラナデシコがところどころで茂っていましたが、春にはスイセンが沿道を飾るそうで、四季折々の花々が楽しめる道となっています。

さらに後方には、5~6 人を 1 チームとする穴に肥料を入れる方、植え付けをされる方々が続き、植え終わると順次、前方へ移動していきます。花を長くきれいに咲かせ続けるため、いま開花している花は摘まれてしまいますが、列の最後尾には、その花と空になったビニールポット、コンテナを回収する方が続きます。皆さんの手も足も止まることはありませんが、楽しそうな話し声や笑い声も続きます。

いつもは、最後尾にタンクを積んだ軽トラが続いて散水をしていくのですが、翌日からまた梅雨空に戻るという天気予報なので、今回は行わないとのことでした。

1 時間半あまりで植栽は終わりましたが、涼しい朝のうちから始められたのは正解！と思うほど日差しが強くなりました。帰り道の日陰には、「麦茶・どうぞ」と書かれた台の上に小さなタンクが置かれていました。こういう心遣い、嬉しいですね。よ〜く冷えた麦茶を美味しくいただきました。

梅雨が明け、暑さを吹き飛ばすようなオレンジと黄色が沿道を彩る日が楽しみです。

* のしろ白神ネットワークのホームページ、夏バージョンのスライドショーで登場する赤紫の花が、梅内で撮影したシラン(紫蘭)です。



男性が軽トラに積んだ苗入りコンテナを約 10m ごとに置いていき、それを 2 人組の女性が等間隔に花ポットを縁石に置いていきます(上)。その前を鍬で植え込む穴を掘っていきます(右)。



袋を持った人が穴の中に肥料を入れていきます。



穴にマリーゴールドの苗を植えて行きます。植え終わったら列の先頭へ移動するという流れ作業が誰の指示もなしに順調に続きます(上)。

コスモスの間にも植えられているので、秋まで沿道景観を楽しむことができます。梅雨明けが楽しみです(右)。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

梅内では、例年、女性が中心となった沿道植栽の翌日は、男性の方々が総出で共有林の道の手入れ等をなさっています。3人の藤田さん(偶然にも皆さん同じ苗字！)が明日の下見に行かれるというので、安井キエさんはじめ、さつき会の方々とお別れしたあと、同行させていただきました。

梅内には共有の山林や土地が50町歩あり、そのうち16町歩がスギの人工林です。昭和初めから戦中・戦後に部落総出で植林・手入れをしてきました。これら財産を管理する機関を梅内本郷といい、役員を年番、代表者を年番長といいます。かつては任期が1年だったことから、「毎年の当番」という意味でこういう呼び名となっているそうです(現在は任期2年)。右上の写真、先頭を歩いて行かれる藤田さんが、現在の年番長です。

ご案内いただいたのは、^{ぼっこだい}馬子岱といわれる場所にあるスギの試験林です。試験林といっても、国や県のものではなく、長い年月をかけて間伐をしながら、どの位の期間でどれくらい成長するのかを梅内の方々が見守ってきた林です。間伐の都度、記録を取ってきた結果、間伐をしても10年で林の材積は元に戻ることが分かったそうです。

年番の藤田さんが高校生の頃には、夏休み中に1週間は部落総出の下草刈等の作業があったそうです。当時は草刈機もなく、暑い中、鎌での手作業はとても大変で、今なら昔の人が林をつくり、守ってくれた有り難味が良く理解できるけれど、当時はとても気の重い作業だったそうです。

林道脇の1本のスギには、4本の白い線が引かれています。線は4m間隔で、山の材積を計算するときに使うのだそうです。山の物差しですね。現在は木材価格が下落し、昔の2倍も3倍も伐採しても追いつかなくなったそうですが、好景気に沸いた頃は収益を皆で山分けし、藤田さんのお宅ではトラクターを購入したこともあったそうです。

馬子岱は別名「常盤渡り」とも呼ばれる集落だそうです。道路が整備される以前は、米代川まで下るより山越えをした方が近かったため、ここから行き来をしていたことに由来します。道があれば、人ともものが交流します。常盤でも同じお話を聞きましたが、藤田さんも常盤にご親戚がいらっしゃるそうですし、冬にはハタハタを買いに峰浜まで行っていた時代もあったとか。サバ街道ならぬハタハタ街道ですね。

こうしたつながりを、今後、のしろ白神の道・北側の魅力の一つにしていけたらと、強く感じました。

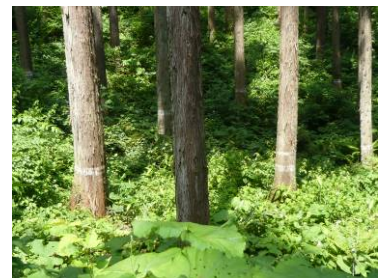
文：渡辺 千明



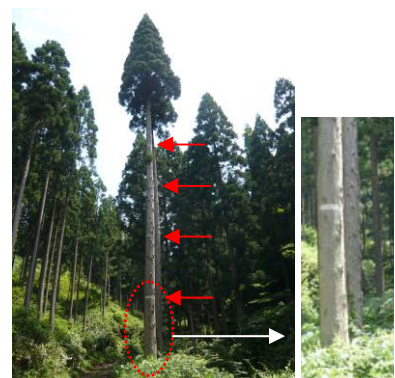
試験林に向かいます。トラUNKに常備している長靴と軍手、手ぬぐいが役立ちました。



5年ほど前にも間伐しているという林はすくすくと秋田スギが育っています。



立木を良く見てみると、白い線や文字がつけられていて、試験林としてデータを取っていることが分かります。



林道の三叉路、開けたところに山を測る物差しのスギがすく々と立っています。